イクメン企業アワード２０１３　グランプリ受賞

医療法人社団三成会

（南東北春日リハビリテーション病院）

所在地：福島県須賀川市　　業種：医療・福祉　　従業員数：約 200 人

育 MEN

- ◆ 職員が仕事と家庭とを両立させることができ、職員全員が働きやすい環境をつくることによって、全ての職員がその能力を十分発揮できる法人となれるよう取組を推進
- ◆ 職員アンケートで男性の 58%が育児休業を取得したいと答えたことから、その実現に向け、トップダウンでの推進会議、個別面談での勧奨、育児休職支援手当の支給要件として感想文の提出を付し、育児休業者の感想文を社内報に掲載して周知する等の取り組みにより、男性が育児休業を取得しやすい職場風土を醸成
- ◆ 業務のマニュアル化や簡略化を進め、リーダー的な立場の男性職員も休業しやすい環境づくりを実現
- ◆ 平成 24 年度の男性の育児休業取得率 50%（取得者数４名）と増加傾向。低い離職率と、職員の確保に寄与

仕事と家庭の両立支援に関する基本方針

職員が仕事と子育てや介護を両立させることができ、職員全員が働きやすい環境をつくることによって、全ての職員がその能力を十分発揮できる法人となるよう取り組みます。

✧ 主な取組の紹介 ✧

★育児休業中の職員へ手当を支給する「育児休職支援手当」の支給
　１か月以上の育児休業取得者に対して「育児休業期間中１か月目：基本給の全額、２・３か月目：基本給の半額」を支給する

★育児休職支援手当の支給要件として感想文（次ページ参照）の提出を付し、それらを社内報やホームページ上に掲載し職員に周知している

★個別面談での育児休業取得の勧奨
★リーダー的な男性職員も休業しやすい環境づくり　など

✧ イクメン社員の体験談 ✧

「育児休業を取得して」

娘の出産に伴い、１ヶ月の育児休業を取得。

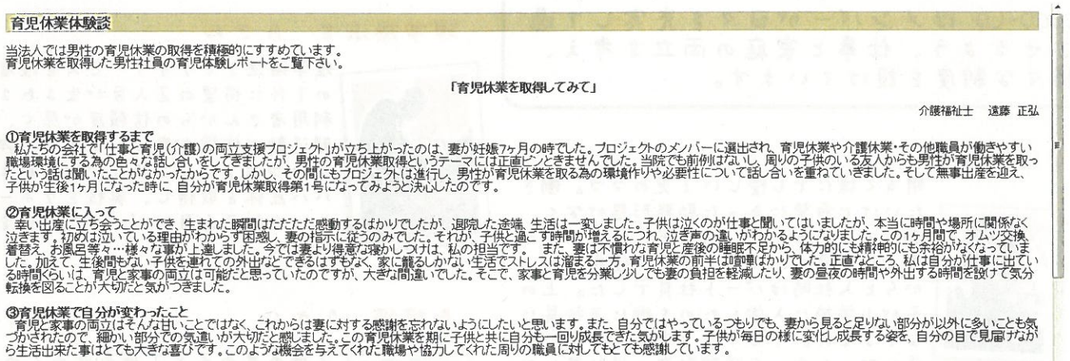
取得する前は、男性の育児休業というものに対して、職場への後ろめたい気持ちもあり、正直疑問もあった。

しかし、実際休業に入ると、娘が一日一日成長してゆくのが身近に感じることができ、愛おしさが更に増した。それと同時に感じたことは、妻の大変さである。夜中の授乳、オムツ交換、夕方のたそがれ泣き、初めての子育てに加え日々の家事、休む暇もない忙しさに、妻の母としての強さと凄さを感じた。そんな大変さの少しでも力になればと休業の間、自分に出来ることは全てこなした。妻にも助かったと言ってもらえ育児休業を取って良かったと思う。

この休業で育児は夫婦で協力しないと大変であることを知ることができた。

（介護福祉士　古内　友幸さん、所属：介護部、役職：副主任）

育児休業者の感想文を社内報やホームページに掲載しています！



育児休業体験談

当法人では男性の育児休業の取得を積極的にすすめています。
育児休業を取得した男性社員の育児体験レポートをご覧下さい。

「育児休業を取得してみて」

介護福祉士　遠藤　正弘

①育児休業を取得するまで
　私たちの会社で「仕事と育児（介護）の両立支援プロジェクト」が立ち上がったのは、妻が妊娠7ヶ月の時でした。プロジェクトのメンバーに選出され、育児休業や介護休業・その他職員が働きやすい職場環境にする為の色々な話し合いをしてきましたが、男性の育児休業取得というテーマには正直ピンときませんでした。当院でも前例はないし、周りの子供のいる友人からも男性が育児休業を取ったという話は聞いたことがなかったからです。しかし、その間にもプロジェクトは進行し、男性が育児休業を取る為の環境作りや必要性について話し合いを重ねていきました。そして無事出産を迎え、子供が生後1ヶ月になった時に、自分が育児休業取得第1号になってみようと決心したのです。

②育児休業に入って
　幸い出産に立ち会うことができ、生まれた瞬間はただただ感動するばかりでしたが、退院した途端、生活は一変しました。子供は泣くのが仕事と聞いてはいましたが、本当に時間や場所に関係なく泣きます。初めは泣いている理由がわからず困惑し、妻の指示に従うのみでした。それが、子供と過ごす時間が増えるにつれ、泣き声の違いがわかるようになりました。この1ヶ月間で、オムツ交換、着替え、お風呂等々…様々な事が上達しました。今では妻より得意な寝かしつけは、私の担当です。　また、妻は不慣れな育児と産後の睡眠不足から、体力的にも精神的にも余裕がなくなっていました。加えて、生後間もない子供を連れての外出などできるはずもなく、家に籠るしかない生活でストレスは溜まる一方。育児休業の前半は葛藤ばかりでした。正直なところ、私は自分が仕事に出ている時間くらいは、育児と家事の両立は可能だと思っていたのですが、大きな間違いでした。そこで、家事と育児を分業し少しでも妻の負担を軽減したり、妻の昼夜の時間や外出する時間を強引で気分転換を図ることが大切だと気がつきました。

③育児休業で自分が変わったこと
　育児と家事の両立はそんな甘いことではなく、これからは妻に対する感謝を忘れないようにしたいと思います。また、自分ではやっているつもりでも、妻から見ると足りない部分が以外に多いことも気づかされたので、細かい部分での気遣いが大切だと感じました。この育児休業を期に子供と共に自分も一回り成長できた気がします。子供が毎日の様に変化し成長する姿を、自分の目で見届けながら生活出来た事はとても大きな喜びです。このような機会を与えてくれた職場や協力してくれた周りの職員に対してもとても感謝しています。

【詳しくはこちら】

http://www.kasuga-rehabili.com/kurumin03.html?log_no=undefined#undefined

✧ イクメン企業アワード選考委員の評価ポイント ✧

中小規模の事業所において、男性が育児休業を容易に取得できるよう、制度の積極的利用を促すための工夫ある取組を行っている。

福島県は若い職員の確保が難しい状況にある中、イクメン推進及び次世代育成支援の積極的な取組により、低い離職率や職員の確保に結びついている点がすばらしい。